

平成20年10月20日

各位

上場会社名 東亜ディーケーケー株式会社
 代表者 代表取締役社長 佐々木 輝男
 (コード番号 6848)
 問合せ先責任者 取締役管理本部長 玉井 亨
 (TEL 03-3202-0211)

業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績動向を踏まえ、平成20年5月15日に公表した業績予想を下記の通り修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

(金額の単位:百万円)

平成21年3月期第2四半期連結累計期間連結業績予想数値の修正(平成20年4月1日～平成20年9月30日)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株当たり四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	6,500	100	90	65	3.92
今回発表予想(B)	6,415	129	124	60	3.67
増減額(B-A)	△84	29	34	△4	――
増減率(%)	△1.3	29.0	38.2	△6.3	――
(ご参考)前期第2四半期実績 (平成20年3月期第2四半期)	6,583	106	89	64	3.87

平成21年3月期第2四半期累計期間個別業績予想数値の修正(平成20年4月1日～平成20年9月30日)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株当たり四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	6,000	30	70	45	2.71
今回発表予想(B)	5,937	76	134	91	5.48
増減額(B-A)	△62	46	64	46	――
増減率(%)	△1.0	154.5	91.7	102.3	――
(ご参考)前期第2四半期実績 (平成20年3月期第2四半期)	6,083	41	61	61	3.70

修正の理由

当第2四半期累計期間(中間期)における業績は、米国サブプライム問題に端を発した株価の大幅下落など金融資本市場の混乱、エネルギー資源の高騰など相俟って世界的な景気減速の懸念が強まる中、主たる需要先である半導体市場の低迷、大型設備投資の減少など厳しい需要環境の中で推移いたしました。
 このような中で当社は、利益面において概ね所期の業績予想(平成20年5月15日公表)を上回る見込みとなりました。

【売上高】

当社の経営指針である「お客様第一」の視点に立った全グループ社員の頑張り、当社の特徴の一つである環境用水質分析計の輸出など好調な分野への注力、米国HACH社との協業が軌道に乗り始めるなど、所期の目標達成に向けて鋭意営業活動に取り組みましたが、連結・個別とも微減に止まる見込みとなりました。

【営業利益・経常利益】

品質一番に力点を置いた全社改革運動が漸く定着して収益面での改善が顕著となり、連結・個別とも増益の見込みとなりました。

【四半期純利益】

有価証券の評価損計上、前期末の法人税の修正等があり、若干予想を下回る見込みとなりました。ただし、個別では連結子会社からの配当が貢献して増益となる見込みです。

なお、平成21年3月期の通期業績予想につきましては、現時点で修正の予定はございません。

※上記の予想は現時点で得られた情報に基づき算定したものであり、実際の業績は今後の様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。

以上